

伊豆諸島・小笠原諸島の自然環境による影響

島しょ保健所のサービス対象地域は、伊豆諸島及び小笠原諸島の大島、利島、新島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、小笠原を対象としています。（島しょ保健所は、都庁内の総務課と、大島・三宅・八丈・小笠原の4出張所の5課体制であり、大島出張所には新島支所と神津島支所を設置しています。）

島への交通は、時期によって増便・減便があり、東京竹芝及び熱海から大島周辺島との往復の高速ジェット便が1日2～3便、東京夜発で翌日の各島往復となる大型船が1便運航されています。空路は、羽田～大島往復が1便、調布から大島、新島、神津島など各島への直行往復便2～4便、羽田～八丈往復3便などが就航しています。

三宅村については航空便の就航率が悪く、飛ばない日の方が多い状況にあります。小笠原村については片道25時間半程かかる船便が週1便程度就航しているのみです。

毎年、雨や霧による視界不良や台風等の影響により、空路は何日も全便欠航し、さらに定期船も欠航することがしばしば起ります。

航空貨物の輸送が滞り、船便も接岸時間が制限されたりすると、船が就航できても郵便物の積み残しが生じたり、スーパーや商店でもパン、牛乳、生鮮品等が品切れとなります。

こうした台風や霧、火山噴火や地震による津波等の影響により、食材が島に届かない場合に、島の食材を活用し、また、電気やガスを使わなくても調理することのできるレシピの用意等、日頃から具体的な対策を講じておく必要があります。

参考までに、右側の3ページの中央に南海トラフ地震による津波想定の一覧表、その下に、最近の防災訓練の一覧表を掲載しましたので、ご覧ください。

